

インプラント治療のトレンドと将来展望

勝山 英明

インプラント治療はその卓越した科学的背景の充実と高いレベルの治療成績により、世界的に歯科医療において重要な役割を担うに至った。現在では多くの患者と歯科医師がインプラント治療を前提とした抜歯を行う機会が増加しており、抜歯と同時に行うべき必要な処置またインプラント埋入の最適なタイミングを歯科医師は科学的側面を考慮して決定する責務を持つ。

一方、外部環境の変化は著しく、それに対する治療側の早急な対応と変化が求められている。外部環境の変化とは、患者の急速な高齢化に伴う治療リスク及び難易度の上昇、異なった年齢層ごとの治療ニーズ及び要望の変化、急速なアナログからデジタルへの変化等に代表されうる。すなわち、これまでのインプラント治療に対し、より確実に低侵襲かつ短期間での治療プロトコル確立の必要性が今後さらに加速的に高まることは確実である。それを可能にするドライビングフォースは臨床医師の高いレベルの教育と研修による技術及び能力の向上、マイクロスコープ等に代表されるインフラストラクチャーの浸透、デジタルの応用による高いレベルの診断と治療遂行、さらには科学的背景に富んだバイオマテリアルがキーとなるであろう。現在のインプラント治療のトレンドから外部環境の変化に伴う、将来のビジョンと方向性について言及する。

九州大学歯学部卒業、歯科医師免許所得、九州大学歯学部大学院歯学臨床系口腔外科学専攻、歯学博士。米国ハーバード大学医学部 Beth Israel Hospital, Department of Medicine 研究員を経て ITI (International team for Implantology) 理事、ITI 教育幹事。

現、東京医科歯科大学臨床教授、公益社団法人日本口腔インプラント学会専門医、指導医、研修施設長。日本顎顔面インプラント学会研修施設長。医療法人社団さくら会理事長